

令和3年度(2021年度)第1回函館市地域包括支援センター運営協議会 会議録

- **開催日時** 令和3年(2021年)7月5日(月) 18:30~20:00
- **開催場所** 函館市亀田交流プラザ 大会議室3
- **会議内容**
 - 1 開会
 - 2 委員および事務局職員の紹介
 - 3 会長・副会長の選出
 - 4 議事
 - (1) 地域密着型サービスの運営に関する事項
 - ア 地域密着型サービス事業者の指定等について・・・・・・・・・・資料1
 - (2) 地域包括支援センターの運営に関する事項
 - ア 第1号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所の選定について・・・・・・・・資料2
 - イ 令和3年度函館市地域包括支援センター体制について・・・・・・・・資料3
 - ウ 令和3年度函館市地域包括支援センター収支予算について・・・・・・・・資料4
 - エ 令和2年度(2020年度)函館市地域包括支援センター活動実績について・・・・・・・・・・資料5
参考資料1
 - オ 令和3年度函館市地域包括支援センター活動計画について・・・・・・・・資料6
参考資料2
 - 5 その他
 - (1) 福祉拠点について・・・・・・・・・・資料7
 - (2) その他
 - 6 閉会
- **出席委員** (9名)
齋藤征人会長, 船橋優子副会長, 岩井祐司委員, 二本柳美夏委員, 渡部良仁委員, 茂木勇也委員, 張磨仁委員, 村田亮二委員, 高森秀雄委員
- **欠席委員** (2名)
後藤琢委員, 柏原美之委員
- **地域包括支援センター**
あさひ 四戸管理責任者, こん中央 福島管理責任者, ときとう 長谷山管理責任者, ゆのかわ 佐々木管理責任者, たかおか 松野管理責任者, 西堀 小杉管理責任者, 亀田 常野管理責任者, 神山 川村管理責任者, よろこび 林管理責任者, 社協 高田管理責任者
- **傍 聴** 2名
- **報道機関** 1名(函館新聞社)
- **事務局**
(保健福祉部) 大泉部長, 氣田次長
(福祉事務所) 小松所長
(高齢福祉課) 黒田課長, 辻主査, 今野主査
(指導監査課) 渡辺主査

(地域包括ケア推進課) 小棚木課長, 高橋課長, 岩島主査, 伊藤主査, 古口主任技師,
田畑主任主事

○ 会議要旨

※の記載がある議事については, 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として会議時間を短縮するため, 事務局からの説明を一部省略した。

1 開会

2 委員および事務局職員の紹介

3 会長・副会長の選出

田畑主任主事

会長・副会長の選出については, 「函館市地域包括支援センター運営協議会設置要綱」第5条第2項に委員の互選により定めると規定しているが, いかがか。

岩井委員

事務局一任でいかがか。

委員

異議なし。

田畑主任主事

事務局としては, 齋藤委員に会長を, 船橋委員に副会長をお願いしたいと考えるが, いかがか。

委員

異議なし。

田畑主任主事

異議なしの声があったため, 会長は齋藤委員, 副会長は船橋委員に決定する。
会長, 副会長からご挨拶をいただきたい。

齋藤会長

前岩井会長からバトンを渡していただき, このような席に就かせていただくのは大変重いと
感じるが, 皆様にご支援いただき, 一緒に函館市の地域包括ケアの推進に向けて取組みたい。
ご協力をよろしくお願いしたい。

船橋副会長

大変せん越ではあるが, 一生懸命勉強して会長をサポートできるよう努力していくので, 皆
様に力を貸していただきたい。

4 議事

(1) 地域密着型サービスの運営に関する事項

ア 地域密着型サービス事業者の指定等について (※)

齋藤会長

地域密着型サービス事業者の指定等について、特に説明すべき事項があれば事務局から説明願いたい。

渡辺主査

(資料1「地域密着型サービス事業者の指定等について」に基づき説明)

齋藤会長

事務局の説明および資料1について、意見・質問等はないか。特にないようなので、協議会として意見がないということで、次にまいるたい。

(2) 地域包括支援センターの運営に関する事項

ア 第1号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所の選定について (※)

齋藤会長

第1号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所の選定について、特に説明すべき事項があれば事務局から説明願いたい。

古口主任技師

資料に記載のとおりであり、特に説明すべき事項はない。

齋藤会長

資料2について、意見・質問等はないか。特にないようなので、協議会として意見がないということで、次にまいるたい。

イ 令和3年度函館市地域包括支援センター体制について (※)

齋藤会長

令和3年度函館市地域包括支援センター体制について、特に説明すべき事項があれば事務局から説明願いたい。

古口主任技師

(資料3「令和3年度函館市地域包括支援センター体制について」に基づき説明)

齋藤会長

事務局の説明および資料3について、意見・質問等はないか。特にないようなので、協議会として意見がないということで、次にまいるたい。

ウ 令和3年度函館市地域包括支援センター収支予算について（※）

齋藤会長

令和3年度函館市地域包括支援センター収支予算について、特に説明すべき事項があれば事務局から説明願いたい。

田畑主任主事

（資料4「令和3年度函館市地域包括支援センター収支予算について」に基づき説明）

齋藤会長

事務局の説明および資料4について、意見・質問等はないか。特にないようなので、協議会として意見がないということで、次にまいりたい。

エ 令和2年度函館市地域包括支援センター活動実績について

齋藤会長

令和2年度函館市地域包括支援センター活動実績について、事務局から説明願いたい。

古口主任技師

（資料5「令和2年度函館市地域包括支援センター活動実績について」に基づき説明）

齋藤会長

事務局の説明について、意見・質問等はないか。

岩井委員

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、色々な活動が落ち込むのではないかと考えていた。実際に、講師派遣や出前講座などの回数は減少したが、総合相談の対応件数は逆に増加しているとのことで、凄いなと思い説明を聞いていた。令和2年度だけではなく、それ以前の周知の頑張りが、じわりと効いてきたのではないか。令和3年度もどのようになるか、引き続き経過を見ていきたい。

もう1点、資料4ページのクリニックとの連携について、ネットワークを構築している機関としては総合病院が多く、個人病院は少ないとの説明があった。歯科クリニックはほとんどが個人病院で、地域包括支援センターとどのような連携がとれているかということ、なかなか難しいところがある。資料5ページの上段で、函館市医療・介護連携支援センターと一緒に取組みたいとあるが、とても大事なことだと思う。個人病院では、何か相談したいことがあっても、話しをしたこともない人には連絡しにくいということもあると思うし、逆もそうではないか。地域のなかでクリニックと地域包括支援センターが、顔が分かっているとか、少なくとも話をしたことがある、一緒に仕事をしたことがあるということが1回でもあると、相談するハードルは下がってくると思う。そのような意味で、医療・介護連携支援センターと一緒に取組み、顔の見える関係をじわじわと広げていくことがとても大事ではないかと考える。

齋藤会長

コロナ禍だから地域包括支援センターを頼れる、頼りたくなるということもあるのではないか。今まで自分達だけで生活できていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で孤立するなか

で、地域包括支援センターに頼っていいということが、岩井委員の話にあったように、じわりと効いてきたのではないかと。

クリニックと地域包括支援センターとの連携について、1点質問があるが、地域包括支援センターに相談してくれるクリニックでは、どのような形で相談してくるのか。もしかするとそこがロールモデルになるのではないかと。

地域包括支援センターでもよいが、事例があれば教えて欲しい。

包括西堀 小杉氏

医師自ら相談してくれるクリニックもある。内容としては、認知症に関する気づきが多い。例えば、薬を処方しているが効果がないという場合に、内服できていないのではないかとということでも話を聞くと、認知機能が低下していることが分かるということがある。看護師から同様の相談があるクリニックもある。

岩井委員から話があったように、1度目の相談の際にうまく対応できると、その後も同じクリニックから相談をいただくことができているので、お互いに成功体験を積み重ねることが大事だと思う。

齋藤会長

看護師や受付の職員からの相談が多いかと思っていたので、医師自ら相談するというのは意外だった。

他に意見・質問等はないか。

高森委員

高齢者見守りネットワーク事業について、とても驚いている。地域包括支援センターがアウトリーチをして、218名に支援をしたということだが、私は精神保健福祉士の仕事をしており、この分野でアウトリーチを行うことはかなり勇気のいることだと思うため、感心している。今後も、このような外にでるという取組、相談がこなくても支援者が実際に出向き、相談を受けたり、必要な支援を提案することを継続していただきたい。

齋藤会長

評価の声をいただき、地域包括支援センターの職員も喜んでいてのではないかと。評価できるということは、今後も継続すべきということでもあると思う。

コロナ禍における事業の実施にあたり、工夫できることというのはいかがか。

渡部委員

あまり無理しなくてもよいのではないかと考えている。我々の業界でも、少しでも気を抜くとクラスターが発生している。少なくとも秋くらいにはワクチン接種が進むので、それくらいまではセーブしながら活動してもよいのではないかと。

二本柳委員

今までは色々な人と交流できていたが、新型コロナウイルスの影響で交流できなくなり、コロナ禍だからこそ支援を必要とする人が出てきていると思う。今だからこそ、地域包括支援センターは高齢者に積極的に関わる必要があると思う。

齋藤会長

ある町の生活支援コーディネーターから、往復はがきを高齢者に送付しているという話を聞いた。安否確認をしながら地域のニーズを拾っているということだった。色々なやり方を考える余地はあると感じた。

確かにクラスターは予防しなければならぬので、難しいところではある。

船橋副会長

私の担当地区に、20年も家からでたことのない方がいた。今回、その方の母親が骨折し入院したが、コロナ禍で面会ができなかった。そのため、その方が私のところに頻りに相談に来るようになり、とても驚いたと同時に、困ったときに相談に来てくれたことが嬉しかった。

また、町会では、花植えをし、ワクチン接種も進んできたため、1か月後に雑草とりをしようということで声をかけ、終了後には弁当を配布するなどして、安否確認をしている。

令和3年度の地域包括支援センターの取組に期待することは多くあるが、地域には商店やドラッグストアが多くあり、1万円札でしか買い物しない人がいるなどの情報も得られると思われる。そのような機関とのネットワークを開発することも大事ではないか。私達は、ドラッグストア等に行って話を聞くことができるような立場ではないので、地域包括支援センターが入ってくると一歩前にすすめるかなと感じる。

齋藤会長

他に意見・質問等はないか。なければ、ただ今の意見を参考にさせていただきたい。

オ 令和3年度函館市地域包括支援センター活動計画について

齋藤会長

令和3年度函館市地域包括支援センター活動計画について、事務局から説明願いたい。

岩島主査

(資料6「令和3年度函館市地域包括支援センター活動計画について」に基づき説明)

齋藤会長

事務局の説明について、意見・質問等はないか。

高森委員

参考資料2を一通り拝見した。各センターで色々な目標を立て、目標に基づいて実践しているということは良く分かったが、評価は文書で書かれているため、人によって評価の方法が変わってくると感じた。目標数値や達成度など、数値で記載されていると共通認識ができるため、評価も共有できると思う。進捗割合や達成度を数値化していただきたい。

齋藤会長

解釈によっては、よく出来ているのか、そうではないのかが分かりにくいというものではなく、数値で誰もが分かりやすいような評価方法を検討してみてもどうかという意見である。

他に意見・質問等はないか。

茂木委員

コロナ禍において、高齢者も活動が制限されており、ゴールデンウィークやお盆などの連休明けには感染者増の報道があるなかで、デイサービスの利用者も減少するなどの影響がある。そのような中でも、現在活動している自主活動グループについては、ワクチンの接種状況にもよると思うが、活動を継続し、参加していただく取組は重要ではないか。各センターで広報紙の配布等周知の取組を行っているが、ポスターにQRコードを掲載しているセンターがあり、高齢者だけでなく、高齢者を支援する世代の人にも情報発信することはとても良いと感じた。

張磨委員

活動計画策定の基本となる圏域の現状と課題について、各センターの取りまとめ方が個人的であると感じた。ゆのかわでは、地域の声からの気づきが記載されており、たかおかでは、地域のCOVID-19の影響ということで、今問題になっていることに着目し課題として記載するなど、地域のことを良く理解し問題を把握されていると感じた。

資料の最後にあるように、これから、地域包括ケアシステムを深化・推進していくということに期待もできる。色々大変な時期かと思うが、よろしく願いたい。

村田委員

私は大森町の老人クラブの会長をしており、町会ともども西部圏域を担当している地域包括支援センターあさひには大変お世話になっている。

きめ細かい支援をしていただいているが、一つの例として、町会と一緒にいきいき健康教室を月2回実施している。介護予防の体操は平山医院の職員、脳トレについてはあさひの職員に指導していただき、皆喜んで参加している。

これからもよろしく願いたい。

齋藤会長

地域包括支援センターあさひから何かコメントはあるか。

包括あさひ 四戸氏

大森町ではコロナ禍でも健康教室の活動を継続し、楽しくハードな体操を行っている。センターでは、脳トレの指導のほか、平山医院とつなげるなどの後方支援を行っている。センターとしても、よろしく願いたい。

齋藤会長

人口20万人以上の市でも、このように地域包括支援センターの職員と地域住民の方が顔なじみの関係ができてるのが良い。

社会資源の不足という話もよく話題になるが、道南のある町では、健康体操を喫茶店で行っている。開店前の喫茶店で体操を実施し、体操の終了後お茶を飲んで帰る。喫茶店のためにもなるし、体操の会場も確保でき、面白い活動だと思った。

地域包括支援センター亀田の活動計画で、地域づくりに関心がある層と活動をどのようにマッチングするかとの記載があったが、先ほどクリニックとの連携でも話があったとおり、住民が自分達でやってみたいということのを、地域包括支援センターなり、生活支援コーディネー

ターナリが少しお手伝いをし、小さな成功体験をすると、次はこうやってみようという意欲につながっていくのではないか。アフターコロナの際には、そのような後押しをしてあげると住民主体の活動にも火がつくのではないかと感じた。

他に意見・質問等はないか。なければ、ただ今の意見を参考にさせていただきたい。

3 その他

(1)福祉拠点について

齋藤会長

福祉拠点について、事務局から説明願いたい。

伊藤主査

(資料7「福祉拠点のイメージ・福祉拠点運営業務に係る公募型プロポーザルの概要」に基づき説明)

齋藤会長

事務局の説明について、意見・質問等はないか。特にないようなので、協議会として意見がないということで、次にまいりたい。

(2)その他

齋藤会長

事務局，委員，センターから何かあるか。

事務局，委員，センター

特になし。

(閉会)